

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

タイトル：AA 研共同利用・共同研究課題「アジア文字研究基盤の構築(2)－文字学に関する既存術語の再検討」

2021 年度第 3 回研究会

日時：令和 3 年 10 月 17 日（日曜日）午前 10 時 00 分より午後 16 時 00 分

場所：Zoom

報告者名（所属）

1) 落合淳思（AA 研共同研究員，立命館大学）

「漢字における形声とその周辺概念について」

(About xingsheng (形声) and related concepts in hanzi (漢字))

文字学に関する術語として、「形声」「音符」「意符」「象形性」の 4 点について素案を提示した。特に形声については、成立過程や特殊な構造などを網羅的に述べた。参加者から多くの意見があり、新たな概念として「字形構造の歴史的変化における中間体」や「音節の一部を表記する音符」も必要であるなどの知見が得られた。

2) 落合淳思（AA 研共同研究員，立命館大学）

「漢字における「形符」という概念について」

(About the concept of “xingfu (形符)” in hanzi (漢字))

漢字の構成要素について、従来は意味を表す「意符」と発音を表す「音符」だけが認識されていたが、象形性を持った部分を「形符（仮称）」として定義する必要性について述べた。こちらも多く意見があり、「無要素記号（あるいは飾符・派生符号）」の概念も必要であることが確認された。また意味情報による文字については、文字と構成要素を「構成性」としてとらえるという方法が提示された。

3) 全員

「企画展示に関する打ち合わせ」

(Discussion on the Exhibition to be held in November)

今回は、11 月に開催予定の「解説！アジアの古代文字」展の内容、展示品、展示品解説小冊子などについて、全員で検討した。

完全な Zoom 形式となったものの、12～13 時の休憩をはさんで、活発な議論が行われた。